

# \* 研究授業からの学び \*

R4.8.25  
No.2  
文責 新玉

令和4年 6月15日(水)

西土佐中学校 第1学年 総合的な学習の時間 小田桐 裕樹 兼松 成 宮本 教子 教諭

単元名 「地域発見 ～地域を理解し、発見しよう～」全50時間

小単元1 「課題設定に向けて、地域を巡り西土佐を再発見しよう」(27時間)

## <単元でつきたい力>

- ・地域の産業における課題や取組を知り、それに関わる人々の思いや工夫が分かる。
- ・情報を比較・分類・関連付ける、多面的に見るなど、探究の過程に応じた技能を身に付ける。【知識及び技能】
- ・自分を取り巻く社会の現状を踏まえ、地域や自分の課題を発見し、解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・自他の考えを交流しながら、協働して探究活動に取り組もうとする【学びに向かう力、人間性等】

## 本時の目標

活動計画を基に、取り組むべき対象や課題、方法について再検討し、活動の見通しを持つ。

## 本時の評価規準

立場の違う人の意見や、他者の考えを理解し、課題解決に向けて協働しようとしている。(主体性・協働性)

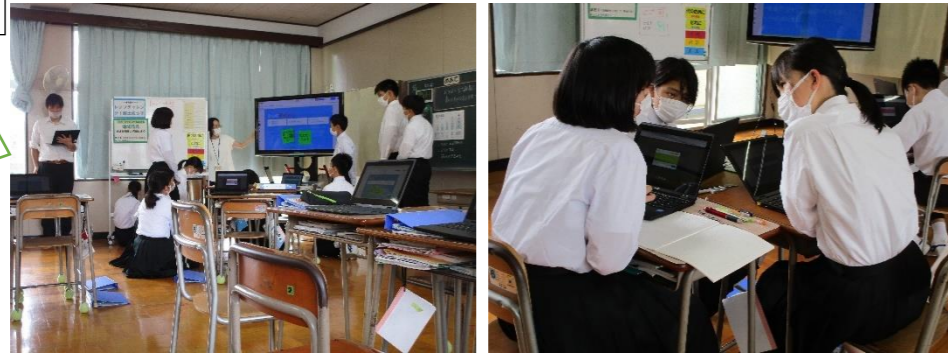
自分や地域の人々の思いや地域の現状から、取り組むべき対象や課題を見出し、見通しを持って計画を立てている。(課題設定)【思】

## 本時の情報活用能力

問題解決のために、他者の考えを生かして、新しい考え方や方法を取り入れている。

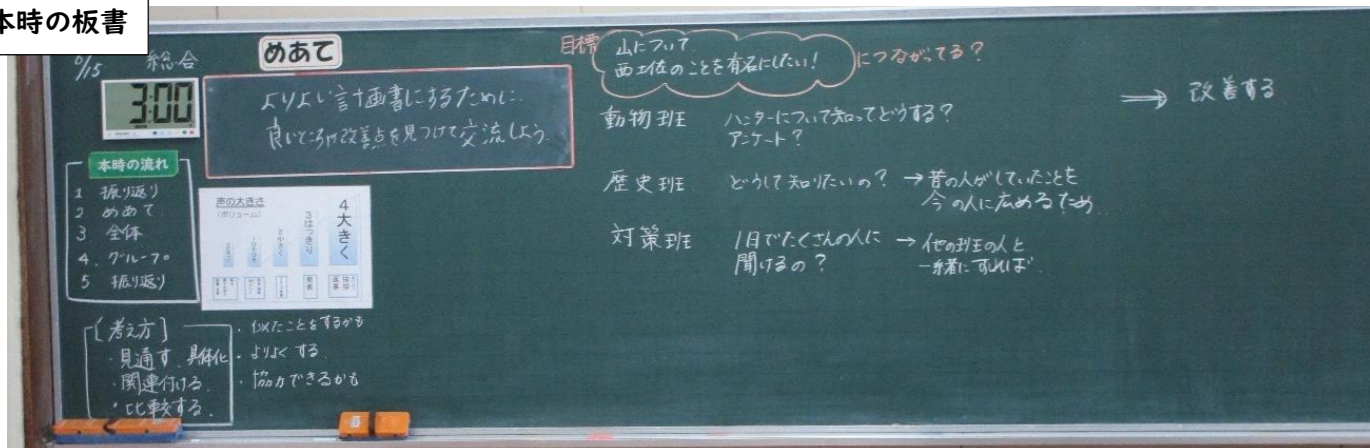
## 本時の授業風景

なぜ、二人のハンターに話を聞くのですか。ハンターについて知ってどうするのですか。



昔は、木を川にそのまま流して下流の地域に運んでいた。昔の人がしていたことを、今の人に広めていきたい。

## 本時の板書



## 研究協議より(抜粋)

### 授業者より

- 自分達でよりよいものにしようという気持ちが見られた。
- 子どもたちに「きちんとした意見を言わなくては」という意識が強い。
- リーダーとの段取りが大切。
- 「よりよい活動計画とは何か」「効果的な方法とは」「目的は」等、深めきることができなかった。
- 議論の方向性がまとまらなかった。
- 「質問」に対して「返答」が合わないことがあった。
- 押さえることが多く、その中での話し合いは生徒にとって難しかった。
- 本気で授業に向かわせることが課題である。

### 参観者より

- 視覚的な支援、効果的なタブレットの活用ができていた。
- 自分の意見に理由づけして発言できていた。
- 授業の司会・進行を生徒主体で行い、教師の板書、教師の助言等、役割分担ができていてよかった。
- 切り返しの発問により思考を深めていた。
- 常に目的に戻って考えさせることができていた。更に生徒から自発的に思うことを目指すといい。
- これまでの経過が分かるノートづくりができていた。
- 発言の声がとどくよう、相手意識をもって、全教科で取り組むことが大事。
- 発言の偏り、発言する生徒が決まっているため、手立てが必要である。

### 指導主事より

- ・「計画をよくしたい」「自分の意見を発表したい」という思いがグループ発表の際に感じられた。
- ・「ひと」や「もの」との出会いを廊下に掲示し、可視化していた。
- ・授業の最後に、次につながる発言があった。
- ・学びを深めるためには、内容を精選し、目的をしぼることが必要。
- ・つきたい力を明確にし、主体的、協働的な学びを目指す。
- ・情報活用能力については、それぞれの学年の授業で意識して取り組む。

### 授業者のリフレクションより

- ・教師側も生徒側もまだやりたいことが見えてこず、授業の中でも迷っている。その中でもつきたい力を意識して授業をしていくことが大切であると感じた。
- ・少しずつではあるが自分たちで取り組む姿勢も見え始めているので、ゴールが見えてくればもっと成長した姿が見られると思う。そのためには、教師側がしっかりと準備をして問い返すことで、生徒の思考が深まるようにしていきたい。

## ☆これから取り組んでいきたいこと

\*一学期の学びから、子ども達が本気で取り組めるように学年団で話をして準備しておく。

\*思考ツールの特徴を教え、目的に応じて選択できるようにする。